

地球惑星科学委員会（第26期・第4回）

日 時 令和6年4月24日(水) 12:00～14:00

会 場 オンライン会議 (Zoom)

出席者 佐竹健治、三枝信子、沖大幹、小口高、倉本圭、中村卓司、西弘嗣、堀利栄、矢野桂司、藪田ひかる（10名）

欠席者 なし

議 事

- 1 地球惑星科学委員会関連の分科会・小委員会の活動状況の報告
- 2 地球惑星科学委員会関連の分科会・小委員会（合同分科会）の活動予定
- 3 日本地球惑星科学連合大会のユニオンセッションについて
- 4 その他

資 料

資料1：分科会の活動報告（第三部会資料）

資料2：地球惑星委員会組織図（20240229）

資料3：各分科会の議事概要

資料4：JpGU ニュースレター Vol.20 No.1

資料5：JpGU ユニオンセッション（U-10）プログラム

参考資料1：地球惑星委員会（第26期第1－3回）議事概要

参考資料2：各分科会・小委員会の設置申請書、構成員名簿

議事に先立ち、佐竹委員長から開会挨拶がなされ、今回の議事内容の確認を行った。

1 地球惑星科学委員会関連の分科会・小委員会の活動状況の報告

各分科会の活動について各委員から報告を行った。併せて、ロシアのウクライナ侵攻を踏まえた各分科会及び大学研究機関の国際対応に関して、観測・データ交換の一時停止、送金困難、ロシアでの大会開催中止、宇宙協力関係の一時停止、国費留学生受け入れの不認可などの状況がある一方で、ロシアからの大会への個人参加や国際宇宙ステーションでの関与は進んでいるといった状況の共有を行った。また、今後、イスラエルによるガザ侵攻をめぐる対応が議論になる可能性も考えられ、我が国の国際関係に関わる情報共有の重要性が周知された。

2 地球惑星科学委員会関連の分科会・小委員会（合同分科会）の活動予定

三枝会員から、アクションプランにおける意思の表出の今後の予定について、以下の説明があった。

(i) 第7期科学技術・イノベーション基本計画の策定（2026年3月）に向けた政府準備が2024年度の夏頃から始まることを想定し、基本計画に対する学術会議からの意思の表出を今秋には準備する。その中には、基本的に重要な項目（研究力強化・研究評価・人材育成・ダイバーシティなど）に加えて、5年前に出した基本計画からの社会の変化を考え、感染症・生成AI・量子コンピュータ・気候変動・カーボンニュートラルなどについても検討し、新たな政策に結び付くようなアイデアを加えるべく、科学者委員会の下に作られた分科会が対応している。

(ii) カーボンニュートラルと循環経済を主体とした課題別委員会の設置について環境学委員会関係者に相談中。また、研究力強化に関する課題別委員会を第26期も引き続き立ち上げる予定。

(iii) 生成AI・量子コンピューティングに関する議論、担当を情報学委員会に依頼している。

上記は、アクションプランとして加速したいものとしてピンポイントで各分野別委員会や分科会にお願いしているが、従来型を制約するものではないので、現在計画しているものがあれば進めてもらいたい。これらは骨子案が出たところで情報共有できるものもある。

また、新しく公表する意思の表出の普及活動を行い、第27期に向けた長期計画を立てる時間を確保するためにも、第24期～第25期に比べて半年～1年前倒しにしてスピーディ、タイムリーな意思の表出を進めることが望ましい。（R6.4.22 総会資料4, 29-30 ページ参照）

3 日本地球惑星科学連合大会のユニオンセッションについて

佐竹委員長より、JpGU2024でのユニオンセッション「日本学術会議とJpGU」（5/27 午後開催）に現地参加してもらうことで合同分科会として代えることができないかとの提案があった。JpGUに入会していない委員のために後日の配信動画視聴やオンライン参加も検討されたが、現地参加を基本とし参加者の出欠確認を容易にするための工夫として、合同分科会ではなく次回地球惑星科学委員会に代える（連携会員にはオブザーバとして参加いただく）方向で進めることとした。

4 その他

・倉本会員から、まだどの分科会にも参加していない連携会員の分科会参加手続きについて質問があった。三枝会員より、2024年3月末の段階で連携会員の81%が正式に分科会に参加しているが、それ以外の連携会員にはその専門分野の分野別委員会の委員長に問い合わせるか、小委員会に連絡を取ってもらうよう知らせる旨、説明があった。

・小口会員から、地球環境変化の人的側面(HD)分科会(地域研究・環境学・地球惑星科学の合同分科会)の立ち上げ予定について質問があった。三枝会員より、この件の担当が地域研究委員会から環境学委員会へ引き継がれた経緯について、及びフューチャース推進と連携委員会(課題別委員会)の下に HD 分科会を設置する計画について、説明があった。

・未来の学術振興構想のフォローアップの進め方について倉本会員から質問があった。科学者委員会の下に設置された学術研究振興分科会が第 26 期も担当し小改訂を行う予定で、各学協会などのシンポジウムなどで個別に周知、普及をする場合が多いことが予想されるが、その中のエッセンスは第 7 期科学技術イノベーション基本計画に入る旨、三枝会員から説明があった。

以上